

令和2年度 公社等経営評価シート
(対象期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日)

概 要	名 称	一般社団法人宮崎県家畜改良事業団			所在地	児湯郡高鍋町大字持田5734番地	
	電話番号	0983-22-3020			ホームページ	http://www.mwia.or.jp/	
	設立年月日	昭和44年9月30日	代表者	理事長 新森 雄吾	県所管部・課	農政水産部畜産新生推進局畜産振興課	
	総出資額	98,000 千円		県出資額	40,000 千円	県出資比率	40.8%
	設立目的	肉用牛の改良及び増殖を促進するため、種雄牛を繋留し、家畜人工授精用凍結精液の計画的な製造管理、肉用種雄牛産肉能力検定推進を行う。					
特記事項							

内容		平成30年度	令和元年度	令和2年度
①公社等のあり方見直し		安定供給の体制強化を図るため、リスク管理の徹底や研修会への積極的な参加を通じた職員の資質向上を図った。	凍結精液の不正流出を防止するため、管理体制の徹底を行った。	凍結精液の安定的供給のため、飼養管理方法及び採精技術の向上によりより体制強化を図る。
②公社等の経営見直し	経営・事業運営改善	中長期的な経営改善計画の策定・実施	牛舎施設等の補改修、施設整備について、県と協議を行い、長期計画を検討した。	中長期的に経営負担となる、牛舎施設や敷地について、譲渡を実施した。
	財務改善	安定的経営に向けた収益確保	公認会計士と協議を行い、適正な基準にもとづく手続を行うとともに、監査機能の強化に努めた。	安定経営に向けた適正な会計処理を公認会計士との協議し、監査機能のさらなる強化を図った。
	組織等適正化	適切な事業推進に係る経営指導の実施		適正な経営に向けた県との協議を適宜実施した。
③県と公社等関係見直し	人的支援見直し	県職員の役員就任の見直し検討		適正な経営に必要な体制の検討をした。
	財政支出見直し	県補助金の見直し検討	県の単独事業に移行したことによる、財政支出上の不備がないよう県との協議を行った。	肉用牛改良事業の円滑な実施に向けて、県と協議を進めた。
④情報公開推進	ホームページでの情報公開	継続した業務報告・財産目録の公開について適切に対応した。	適宜情報公開に取り組んだ。	適宜情報公開に取り組む。

	(人)	令和元年度				令和2年度			
		合計	県職員	県退職者	左記以外の者	合計	県職員	県退職者	左記以外の者
人的支援	役員数	21	1	1	19	21	1	1	19
	常 勤	2	0	1	1	2	0	1	1
	非常勤	19	1	0	18	19	1	0	18
	職員数	25	0	1	24	25	0	1	24
財政支出等	(千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(千円)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	県委託料	0	68,047	130,732	県借入金残高	0	0	0	
	県補助金	95,492	55,670	0	県の損失補償契約等に基づく債務残高	0	0	0	
	県交付金・負担金・出資金	0	0	0	県職員人件費(県支給分)	0	0	0	
その他の県からの支援等									
主な県財政支出の内容	事業名	事業内容			令和元年度決算額(千円)	令和2年度予算額(千円)	種別		
	①	宮崎県肉用牛改良総合対策事業	産肉能力を把握するための直接検定及び現場後代検定を実施する。			130,732	133,838	委託料	
	②								
	③								
	④								
⑤									

実施事業	① 肉用種雄牛の繋養管理 ② 肉用牛凍結精液の製造及び譲渡 ③ 肉用牛凍結精液の購入及び譲渡 ④ 凍結精液の普及及び効果の確認 ⑤ 肉用種雄牛の産肉能力検定事業							
	活動指標	指標名	算式(単位)	令和元年度			令和2年度	令和3年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値
		① 凍結精液譲渡本数	(本)	133,000	139,598	105.0%	133,000	133,000
	②							
	③							
指標の設定に関する留意事項								

財務状況	収支計算書 (千円)				貸借対照表 (千円)			
		平成29年度	平成30年度	令和元年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
収入 A	533,831	593,180	605,502	資産 A	912,767	1,031,182	1,010,230	
事業収入	292,260	311,009	332,577	流動資産	637,962	758,907	716,403	
補助金等収入	95,492	123,717	130,732	固定資産	274,805	272,275	293,827	
上記以外の収入	146,079	158,454	142,193	負債 B	256,626	329,580	274,435	
支出 B	512,647	547,719	571,308	流動負債	76,851	140,489	82,814	
事業費	404,339	437,757	457,275	固定負債	179,775	189,091	191,620	
管理費	87,408	79,646	90,999	正味財産 A-B	656,141	701,602	735,796	
その他の支出	20,900	30,316	23,033	うち基本金	0	0	0	
当期収支差額 A-B	21,184	45,461	34,194	うち当期正味財産増減額	21,184	45,461	34,194	

※千円未満を四捨五入して表示しているため、合計の金額と一致しない場合があります

財務指標	指標名	算式(単位)	令和元年度			令和2年度	令和3年度	
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値	
①	自己収入比率	(自己収入+自主事業収入) / 当期支出合計 × 100 (%)	80.0	81.8	102.3%	80.0	80.0	
	令和元年度 実績値の算式	(134,626千円 + 332,577千円) / 571,308千円 × 100						
②	管理費比率	管理費 / 当期支出合計 × 100 (%)	20.0	15.9	120.5%	20.0	20.0	
	令和元年度 実績値の算式	90,999千円 / 571,308千円 × 100						
③								
指標の設定に関する留意事項								

直近の県監査の状況	
-----------	--

総合評価	公社等自己評価 凍結精液の価格改訂後の上位種雄牛の販売が良好であったことにより、凍結精液売上高は計画よりも32,738千円程度増加した。また、費用については当初計画どおりであった。 31年度実績により、施設更新・改修に向けた引当金の積み増しが実現でき、計画的な施設改修及び整備に向けた取り組みが今後可能となると思われる。					県所管部課二次評価 県内の繁殖雌牛の増加や能力の高い種雄牛の凍結精液価格が改定したことにより、今後も安定した売上が見込める。 また、施設整備についても、計画が具体化されており、収支から引当金の積み増しができたことは、長期的な視点でも評価できる。
	評価 (A:良好, B:ほぼ良好, C:やや課題あり, D:課題多い) 改革工程 A 活動内容 A 財務内容 A 組織運営 A	評価 (A:良好, B:ほぼ良好, C:やや課題あり, D:課題多い) 改革工程 A 活動内容 A 財務内容 A 組織運営 A				
	目標達成度 	公社等改革推進委員会三次評価 活動内容については、県内の肉用牛雌牛が増加する中、凍結精液を安定して供給できており評価できる。 財務内容については、価格改定後も販売が良好であったこと等から事業収入が増加しており、施設の改修等のための積立金も積み増しできており、評価できる。 引き続き、徹底した防疫体制と凍結精液の管理体制の強化を図りながら、優秀な種雄牛の造成と凍結精液の安定供給に取り組むことが求められる。				